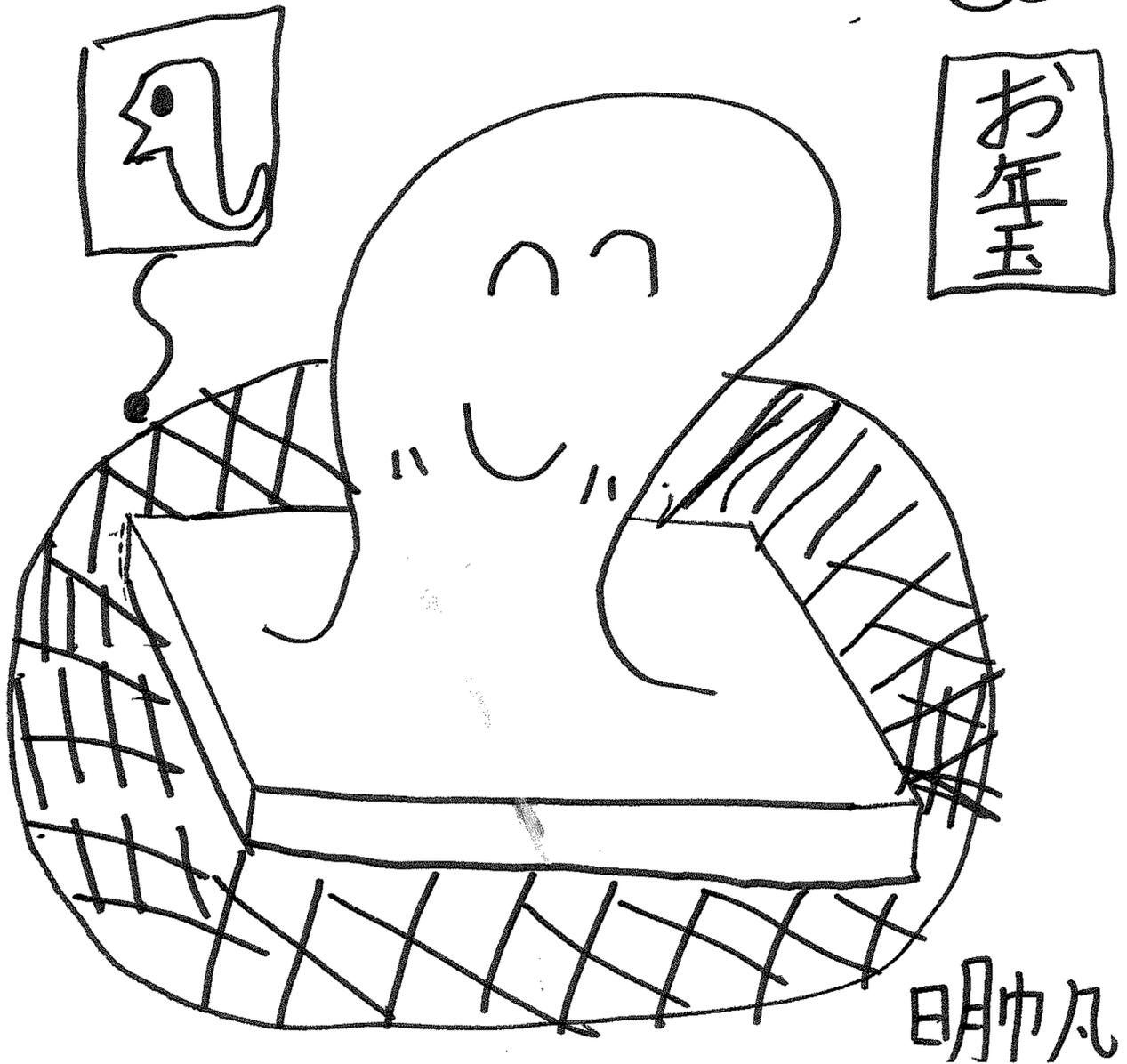


とよ・たち **VOI.30**
美肌通イ言 **H25
1月号**



新年第1号(vol.30)を書いて下さったのは、「Kis-My-Ft2」(ジャニーズ)の藤ヶ谷君と「嵐」の櫻井君が大好きという女の子です。

ピアノを弾いたり歌うことも好きと教えて下さいました。得意なフラフープを回すときも、きっとリズムカルに回すのでしょうか。素敵な表紙ありがとうございました。



豊郷 Tachikawa Clinic

たちかわ皮膚科クリニック*

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様に支えられ今年は 4 年目を迎えます。本年もより一層努力して参りますので宜しくお願い申し上げます。

さて皆様は「悠々自適」という言葉をよく耳にされるかと思います。ある記事を読むまで私はこれを次の様に思っていました。「悠々自適な暮らし」と言われる様にそれはまるで「のんびりとした・時間もあれば金もある的な、まるで何の苦勞もない・ゆったりとした生活」そんな意味だと思っていました。しかし本来の意味はそうではない様です。「焦らず騒がず惑わされず、ゆったりと自ら適くこと」こう記されています。これを知った時私は、昨年最も心に残った本の中のある箇所を思い出し、再度目を通したくなったのです。今回はそれを紹介させていただきます。

「孔子」の孫である「子思」が著した「中庸」の中に“君子は其の位に素して行い、其の外を願わず。”

立派な人は自分に与えられた環境の中で運命を呪ったり不平不満を言ったりせず精いっぱい努力をする。更にこう続き、“富貴に素しては富貴に行い、貧賤に素しては貧賤に行い、夷狄に素しては夷狄に行い、患難に素しては患難に行う。君子入るとして自得せざる無し”。つまり、裕福で地位が高い時も貧しくて地位が低い時も、辺鄙な地にいる時も苦難の真只中にある時も、驕らずへこたれず、その立場にある者として最高最善の努力をする。どんな環境におかれても、ひたむきに最善を尽くすということであると思います。(中略)

さらに本文はこう続きます。昭和 30 年代「神様仏様稲尾様」と謳われた稲尾和久氏についてこう書く。

18 才の稲尾少年は、契約金 50 万円、月給 35,000 円で西鉄ライオンズに投手として招かれた。高卒初任給が 6,000 円の時代である。円卓に契約金を積み上げられた時、母親は気絶したそうです。卒業前からキャンプインしていた彼に高校から連絡が入った。特別な卒業式をしてやるから戻って来なさいと。早速彼は監督にその旨を伝えるとこう言われました。「お前は過去の思い出に生きるのか。それとも未来に生きるのか。どちらだ。自分で決めろ」、この言葉に 18 才の少年はキャンプに残りました。球団には同期の新人が彼以外に 2 人いた。日が経つにつれ、その 2 人と自分の扱いが違うことに気づく。一人はコーチが付いてブルペンでピッチング練習。もう一人もバッティング練習をしている。しかし自分は打撃投手ばかりで手動練習機と呼ばれた。後に分った事だが二人はそれぞれ月給が 10 万円と 15 万円、契約金が 500 万円と 800 万円ということだった。

稲尾さんは初めて自分の立場を知った。

普通ならここで心が折れたりする人も居るだろう。特に今のご時世。しかし、伸びる人はあらゆる条件を生かして伸びていく。稲尾さんは黙々と打撃投手を務め続け、ある事に

気づく。打者はストライクばかりではバットを振り続けなければならない嫌がる。4球に1球位はボールが交じると、ゆとりができて喜ぶ。稲尾さんは4球に1球ボールを投げることにした。480球投げるなら120球は自分の練習のためだけに使える。彼はボールにする1球に魂を込めた。こうして彼は無類のコントロールを身につけていった。

まさに其の位に素して行い其の外を願わず。自分を鍛え大投手への人生を切り開いたのである。私達も「其位素行」の人生を歩みたい。・・・と本文はしめくくる。

—以上「致知」2012.5月号、P7より引用

「悠々自適」つまり焦らず騒がず惑わされず自分の置かれた環境の中でやるべき事を努力すれば、きっと光明はあるはず。私もそう信じ日々前進する。

院長：刀川拝